



お知らせ

記者発表資料 | 平成27年 6月 8日

- 同時発表先：鳥取県政記者会、島根県政記者会、
岡山県政記者会、広島県政記者クラブ、
広島合同庁舎記者クラブ、山口県政記者会、
山口県政記者クラブ、山口県滝町記者クラブ、
中国地方建設記者クラブ

紀伊半島大水害で活躍した「き い はんとうだいすいがい応急組立橋おうきゅうくみたてきょう」が帰ってきます ～ 2年半に渡る復旧支援 ～

平成23年の台風12号による紀伊半島大水害により、和歌山県田辺市において、国道311号が土石流により通行止めとなりました。国土交通省中国地方整備局では、保有する応急組立橋を現地へ派遣し、迂回道路の応急仮橋として使用していましたが、復旧道路が完成し、その役目を終えたことから、この度、和歌山県から中国地方整備局へ返納されます。

記

- 返納日時：平成27年6月10日（水）13：30～

※和歌山県県土整備部 つじもと としゆき辻本 紀之 道路局長が、和歌山県知事からのメッセージを伝達されます。

- 返納場所：広島市安芸区船越南2-8-1
中国地方整備局 中国技術事務所

※取材については、現地へ直接お越しく下さい。担当者がご案内いたします。

<問い合わせ先>

中国地方整備局 082-221-9231（代表）
総括防災調整官 あ だち つかさ足立 司（内線2119）511-6160（平日・夜間）
企画部 防災課長 たけ べ まさ み武部 真実（内線3411）511-6161（平日・夜間）

【広報担当窓口】

広報広聴対策官 ひら かわ まさ ふみ平川 雅文（内線2117）
企画部 環境調整官 た お かず なり田尾 和也（内線3114）

応急組立橋の派遣概要

○被災概要

平成23年9月の台風12号に伴う豪雨により和歌山県田辺市中辺路町栗栖川から真砂地内の国道311号では、大規模な土石流が発生し、道路が通行止めとなりました。

国道311号は県内陸部を走る主要幹線道路で、平成23年10月4日には被災した道路を応急処置した仮設道路を供用させました。しかし、雨天時には二次災害の可能性があります、たびたび通行止めを行っていたため、仮設橋（応急組立橋）を利用して、対岸に迂回する仮設道路を設置し、平成24年10月1日より迂回路を供用しました。

このたび、復旧道路の橋梁が完成し、平成27年3月27日より供用を開始したため、約2年半に渡り中国地方整備局より派遣していた応急組立橋1基が和歌山県より返納されます。

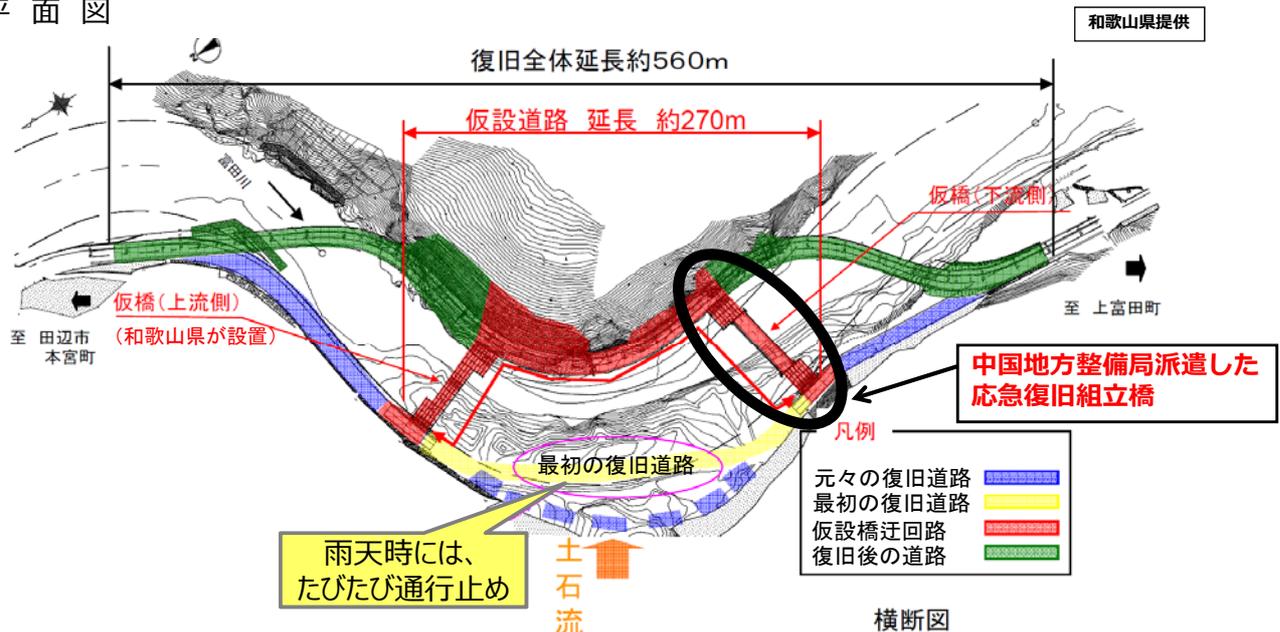
○派遣箇所

位置図

出典：国土地理院ホームページ
(<http://maps.gsi.go.jp>)



平面図



○被災状況

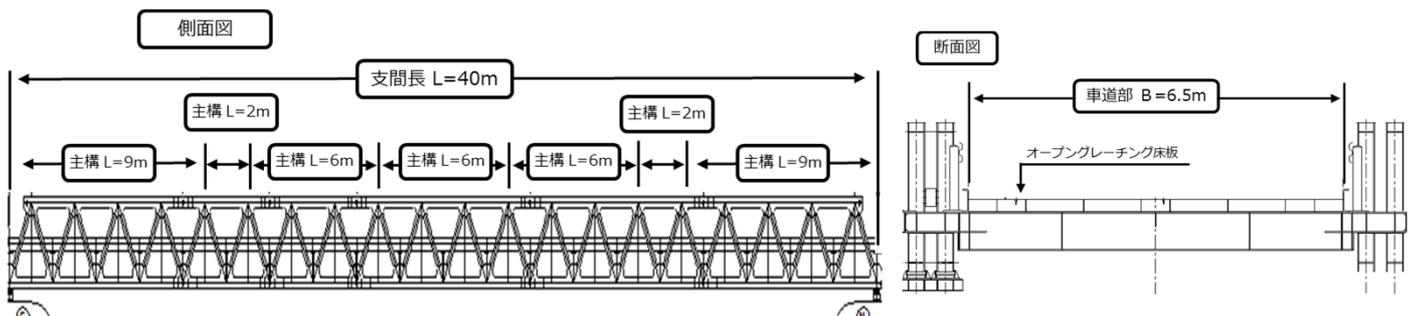


○応急組立橋設置状況



○応急組立橋構造

応急組立橋は、橋梁の破損、河川・道路の決壊時等の災害時に交通路を早急に確保する場合に使用します。主間長は、主構9 m、6 m、2 mの組合せにより、現地に応じてL = 14 m ~ 40 m（2 m毎）での架設が可能です。



○過去の派遣事例

平成21年7月中国・九州北部豪雨で被災した国道262号上勝坂橋（山口県防府市勝坂地先）の仮復旧のため、平成21年8月17日より輸送を開始し、平成21年8月22日応急組立橋の架設が完了しました。

H21.8.22 応急組立橋梁 36m架設完成写真



応急組立橋 (トラス式 40m)

橋梁の破損、河川・道路の決壊等の災害時に交通路を早急に確保することを目的に使用します。



派遣した応急組立橋

主要緒元

形式	組立式下路ワーレントラス式	塗装	溶融亜鉛メッキ
諸元	橋格 1等橋 (T-20、L-20) 橋長最大 40.7m 支間最大 40m (14mより40mまで2mピッチで可変できる。) 幅員 車道6.5m、歩道1.5m たわみ L/400(L:支間長) 床版 車道 鋼製グレーチング 歩道 縞鋼板 接合方法 主構ピン接合 その他 H.T.B接合	総重量	本橋 約146t 歩道 約13t 取付桁 約7t 手延機 約23t 合計 約189t
		適用示方書	道路橋示方書 但し、許容応力度は条件別に割増

主要緒元

形式	組立式下路ワーレントラス式	塗装	溶融亜鉛メッキ
諸元	設計荷重 B活荷重 (TL-25) 橋長最大 40.7m 支間最大 40m (16mより40mまで4mピッチで可変できる。) 幅員 車道6.5m、歩道1.5m たわみ L/600(L:支間長) 床版 車道 覆工板 歩道 覆工板 接合方法 主構ピン接合 その他 H.T.B接合	総重量	本橋 約185t 歩道 約12t 取付桁 約71t 手延機 約28t 合計 約296t
		適用示方書	道路橋示方書 但し、許容応力度は条件別に割増

平成23年台風12号による紀伊半島豪雨災害 ～近畿地整への応援～

台風12号により、紀伊半島で甚大な被害が発生。
近畿地方整備局に対する応援として、災害対策用機械派遣・TEC-FORCE派遣を行いました。

◆TEC-FORCE派遣

9月7日から総計82名。延べ633人を派遣。

情報通信班

奈良県十津川村栗平
9月7日～



栗平川河川状況

衛星通信車1台を河道閉塞箇所での監視のため、奈良県十津川村栗平へ派遣し、カメラ映像を24時間関係自治体へ配信。

現地支援班 9月8日～

情報収集作業



上総近畿地整局長へ報告

近畿地方整備局内、和歌山県庁内、奈良県庁内で、派遣された各地整と協力し、TEC-FORCE各班の情報収集、関係機関との連絡調整。

被災状況調査班 奈良県・和歌山県9月8日～

◆砂防班



ヘリ搭乗



現地調査

奈良県内の河道閉塞箇所の状況をヘリコプターや踏査により調査。調査結果を県へ報告。



県への報告

砂防・高度情報指導班 9月22日～



奈良県内の大規模河道閉塞箇所の現地調査。調査結果を近畿地整へ報告。

◆災害対策用機械派遣

照明車



河道閉塞箇所の監視や応急対策のために、照明車1台、高揚程排水ポンプ車1台を派遣。

排水ポンプ車



◆河川班



奈良県・和歌山県内の河川被災状況調査。調査結果を県へ報告。



県への報告

対策本部車で調査結果とりまとめ

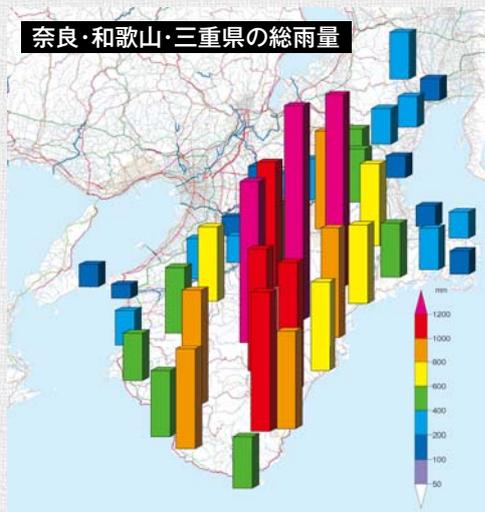
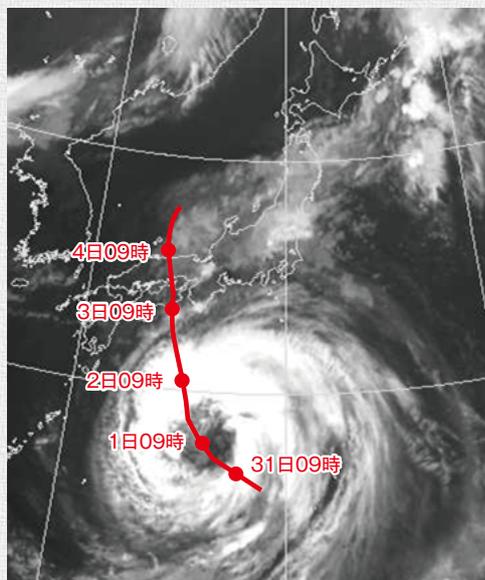
◆道路班



和歌山県那智勝浦町内の道路被災状況調査。調査結果を県へ報告。

紀伊半島大水害資料

平成23年8月25日に発生した台風12号は、9月3日に四国に上陸、中国地方を横断して4日には日本海へ抜けた。時速15キロメートル前後と自転車並みの極めてゆっくりした進み方で、長時間の大雨となった。とくに台風の中心から東側に位置した紀伊半島では総降水量は広い範囲で1,000mmを超え、一部では2,400mmを超えた。奈良県上北山村で1,800mm超、奈良県大台ヶ原で2,400mm超、和歌山県田辺市熊野で1,300mm超など、統計開始以来の記録的な大雨となった。この台風12号とその後の15号によってもたらされた大災害は「紀伊半島大水害」と名付けられた。



熊野川水位^{※2}
約20m
上昇。



総雨量

※1
1,400
mm
超。

※1 雨量:相賀地点上流域における平均総雨量 ※2 水位:相賀地点

道、途絶

土砂崩れなどによる
国道・県道の通行止め236箇所
孤立集落18地区



国道311号田辺市中辺路町栗栖川



相野谷川(三重県紀宝町)

毎日新聞社提供

浸水範囲426ha
浸水戸数約3,321戸(国管理区間)

大洪水

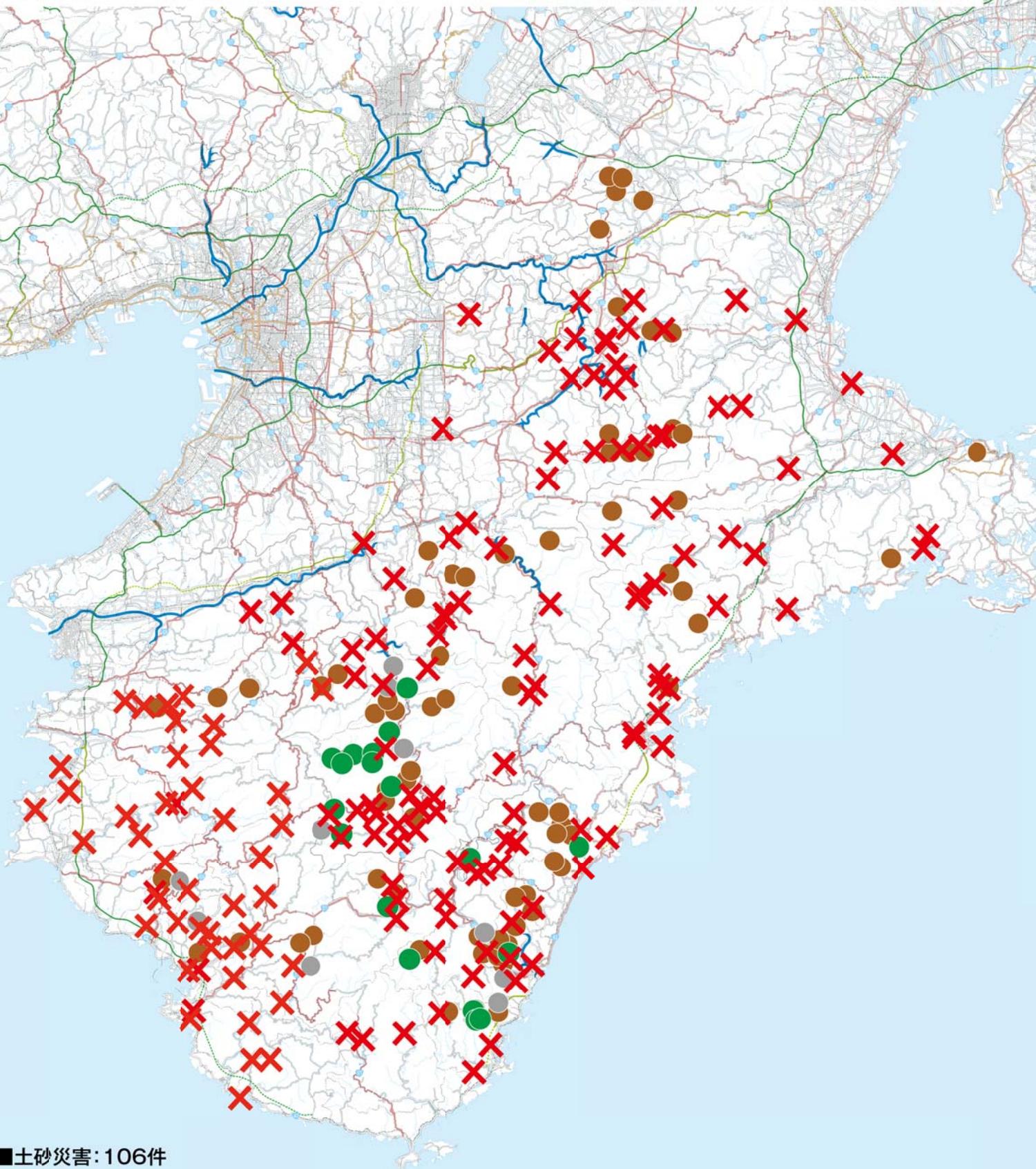
山、崩壊

えぐり取られた大地は1億m³
土砂災害106箇所



五條市大塔町宇井

【平成23年台風12号のおもな災害(三重県、奈良県、和歌山県)】



- 土砂災害:106件
 - 土石流等:59件
 - 地すべり:16件
 - がけ崩れ:31件(平成23年12月31日時点 水管理・国土保全局砂防部調べ)
- 国道・県道の通行止め:236箇所(三重・奈良・和歌山県内)
- 孤立集落:18地区(平成23年9月11日時点 孤立解消箇所を含む)
- 死者:72人 不明者:16人(災害関連死含む、平成24年7月7日現在)

凡例

- × 通行止め(平成23年9月5日時点 各県ウェブサイトデータより)
- 孤立集落(平成23年9月11日時点)
- 土砂災害箇所(人的被害あり)
- 土砂災害箇所